



昆虫飼育方法

カブトムシ・クワガタ・ヘラクレス

温室飼育の場合季節と関係ありません。この場合、冬眠もせず、一年中交尾、産卵が可能。よって、常温飼育の場合に限り、注意が必要です。4月～10月は活動期となり、この間は常に交尾、2～3回産卵します。室内で飼育している場合は、温室を使わなくても冬眠せずに活動していることがあるので、エサを与えることもあります。

飼育に必要なもの

①飼育ケース



プラスチックケースとコンテナがあります。コンテナは観察には向かないが、乾燥しにくい。一般的なプラスチックケースで良く、なるべく大きいものを選ぶようにしましょう。(中～大ケース)

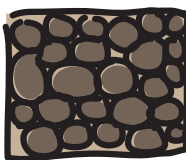
②マット

市販されている昆虫マットで、クヌギ、コナラ等の広葉樹を使用したものがくずを選ぶようにしましょう。



③止まり木・樹皮・木片等

オオクワガタは地上よりも樹木を中心とした活動をするため、できるなら大きな止まり木を用意しましょう。樹皮や木片は隠れ場所であり、転倒した時に起き上がるための足場にもなります。クワガタは転倒したままと、体力を消耗し、最悪の場合死亡してしまいます。



④皿木



特になくても問題ありませんが、エサを直接マットの上に置くよりも、皿木の上に置いた方が汚れにくいです。

⑤霧吹き

マットの保水に使用します。一般家庭にある霧吹きで十分です。



⑥エサ

市販の昆虫ゼリー、バナナ、リンゴ等。水分の多いエサ(スイカ等)は寿命が短くなるため避けるようにしましょう。また、あまり糖分の多いエサは活動が活発になり過ぎて、寿命が短くなる場合もあります。



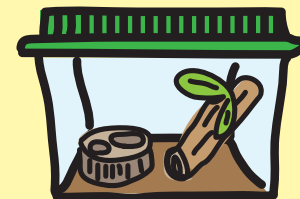
⑦シート

市販の乾燥防止シート、サランラップ、新聞紙等。ケースとフタの間に挟んでおくと、乾燥、コバエ防止になります。



ケースのセット

1. 飼育ケースにマットを5～10cm程入れる。
2. 止まり木、樹皮、皿木を入れる。
3. 霧吹きで適度に加湿する。あまり加湿し過ぎないように注意する。
4. 皿木にエサ(ゼリー等)を置く。
5. 昆虫を入れる。



毎日のお世話

えさ



2匹までであれば、一週間に1～2回程度エサを交換すれば良く、エサの減り方や痛み具合を目安に調整します。夏場はエサが腐りやすいので、バナナなどは早めに交換するよう注意しましょう。

飼育数

基本的に成虫はペアリングの時を除き、1匹ずつ別々に飼育する方が無難です。特に雄の場合は縄張りを持つため、弱い雄はエサが食べれず、挟み殺されることもあります。オオクワガタは比較的メスの仲が良いので、一緒にしても構わないが、相性が悪いとケンカする場合もあります。



飼育場所



なるべく温度変化の少ない、暗くて涼しい室内が良い。直射日光の当たる場所は絶対に避けましょう。

温度管理



30℃以上の高温では弱りやすいので、22～28℃位で飼育するのが良いでしょう。20℃以下では活動が鈍くなり、15℃以下では冬眠します。また、クワガタの種類によって適切な飼育温度は若干異なり、標高の高い場所に棲息する種類(ヒメオオクワガタ、ミヤマクワガタ等)は、高温に弱いので、低めの温度で飼育すると良いでしょう。

湿度調整

マットが乾燥してきたら、霧吹きで適度に加湿します。あまり湿度が高くと、ダニの発生原因にもなるので加湿し過ぎないように注意しましょう。マット表面が乾燥していても内部は比較的湿度を保っているため、表面を軽く湿らす程度で良いでしょう。オオクワガタは若干乾燥気味を好むため、極端に乾燥していなければ問題ありません。

